第8回

損害鑑定フォーラム



Prepare for Crisis

2022.11.5



アンケート QRコード 〈主催〉 公益社団法人 日本損害鑑定協会

〈後援〉 一般社団法人 日本損害保険協会

一般社団法人 日本損害保険代理業協会 株式会社 保険毎日新聞社 一般社団法人 外国損害保険協会 公益社団法人 全国消費生活相談員協会 株式会社 新日本保険新聞社

会長メッセージ / Message

今年も早くから雪災や暴風雨、地震といった大規模自然災害が多発し、皆さん大変忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。そのような中ではありますが、プロジェクトチームをはじめ多くの方々のご尽力により、第8回となる「損害鑑定フォーラム」を開催させていただくこととなりました。

協会関係者の皆さまをはじめ、ご後援ならびにご協賛いただいている皆さまに、心からの感謝と御礼を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染が拡大する中、初めて Webによる開催としましたところ、過去最大となる人数のご参加をいただくことができました。

今年は感染拡大の状況を見据えて、一部の会員の損害鑑定人に会場参加いただき、その模様を Webで配信を行うハイブリット形式としました。

本フォーラムでは、損害鑑定の健全な発展を目的とし、損害鑑定に関する専門知識や研究結果の情報共有を行う場として、学識経験者の講演や専門家を交えたパネルディスカッションなどにより各種課題の整理を行っており、おかげを持ちしまして、今年で第8回の開催を迎えることができました。

テーマの選定に当たっては、(1)公益性、(2)鑑定技能、(3)新機軸といった観点に基づいて進めており、「地震」や「洪水」、「モラルリスク」の他、「海外の資格制度」、「AI」、「損害保険における事故性」、「劣化と保険事故の検討」、「特定修理業者対応」等、時宜にかなった内容を取り上げてまいりました。

今年は、近年多発している大規模自然災害や社会情勢を踏まえ、未来に備えることを主眼に、「物価変動と消費税」と「首都直下地震への備え」について、会員を中心としたディスカッションを企画しましたので、役立てていただければ幸いです。

当協会は皆さまのご支援を受け、昨年11月22日付けで、公益社団法人の認可を受けることとなりました。社会的に高い信頼を得る一方で、責任もこれまで以上に増大することを再認識し、今後も皆さまのご指導を仰ぎながら、より一層社会に貢献できる団体として活動して行く所存でございます。

引き続きご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。



公益社団法人 日本損害鑑定協会 会長 太田 英俊

フォーラム実行委員長 メッセージ

今年のメインテーマは「Prepare for Cricis」として、我々損害鑑定人、鑑定業界が今現在もしくは近い将来直面し対応していくことが求められる「危機」や「脅威」に対して、みんなが当事者となって真剣に向き合い、考え、そして備えることを趣旨とした2つの個別テーマについて、ワーキングメンバーにて半年以上かけて準備してまいりました。

「I. 今、押さえるべき損害鑑定のトレンド」では、日々の鑑定実務で課題となっている 価格変動と消費税を取り上げました。様々な外部要因を受けこの1年の間に大きく動い ている価格変動についてはフォーラム直前までの最新情報をできる限りリアルに盛り込めるよう工夫を凝らし、とっつきにくく敬遠されがちな消費税についてはみなさんの理解を深めるためにフォーラム初の事前研修との連動スタイルを取り入れました。 どちらも我々の鑑定実務に今すぐに役立つ内容となっております。

「II. 首都直下地震『X-Day』」では、わが国ではいずれ発生することを誰もが分かっていながら目を背けがちであった巨大地震に対して、「業界横断で」という壮大なビジョンを掲げ、真っ向から向き合って考え・備えていくことを目指してまいりました。

我々損害鑑定人は、国難ともいえる巨大地震が発生した際にも、鑑定業務に取り組み、被害にあわれた方々にいち早く適正な保険金をお届けすることに寄与するのが使命ですが、一方で、過去に経験したことがないような過酷な状況下でその使命を果たしていかなければならないことは容易に想像できます。

向き合えば向き合うほど、その『X-Day』のために、鑑定業界、損害保険業界全体が、今すぐにでも協力し備えていくことが必須であると実感しております。 その必要性をみんなで共有し、行動の起点となる場にしたいと思っています。

いずれの個別テーマも、損害鑑定人の誰しもが当事者として必ず関わる内容です。 こうご期待ください。



公益社団法人 日本損害鑑定協会
理事 伊藤優

プログラム / Program

総合司会 株式会社高本損害鑑定事務所 中島 有美 ※プログラムの内容は事情により変更が生じる場合があります(敬称略)

9:30-9:40 オープニング 開会挨拶

公益社団法人 日本損害鑑定協会 会 長 太田 英俊

9:40-12:00 I. 今、押さえるべき損害鑑定のトレンド~物価変動と消費税を考察する~

物価変動と消費税を論点に、専門家による講演と、損害鑑定人を交えたディスカッション

 一般財団法人経済調査会
 鈴木雅也

 一般財団法人経済調査会
 武田裕三

G i n z a 会 計 事 務 所 $\stackrel{\text{\sigma}}{\text{\coloredge}}$ 位木 康彦

(リーダー)株式会社 三和鑑定鑑定事務所 佐々木 孝浩 株式会社 内山鑑定事務所 内山 亮 東京損保鑑定株式会社 田中 隆久 株式会社トラストクレームサービス 丹羽 周一 株式会社 アスカ総合鑑定 吉川 代助

12:00-13:00 休 憩 協賛企業紹介·会員事務所紹介

13:00-16:00 II. 首都直下地震「X – D a y」~その時のため、私たちはどう備えるべきか、業界横断で考える~

研究者による想定される被害規模の講演と、会員代表者の談話や損害鑑定人の体験談を基にしたディスカッション

東京大学大学院教育学研究科附属 協力研究員 松本 祐香 学校教育高度化・効果検証センター

一般社団法人 日本損害保険協会 リーダー 金泉 浩二 損害サービス企画部 地震火災・新種グループ

メインマーク・ストラクチュアル・コンサルティング株式会社

【 ワーキンググループ 】

(リーダー)株式会社高本損害鑑定事務所三浦 和也 佐藤 陽 株式会社 アスカ総合鑑定 佐藤 陽 株式会社 福岡損保鑑定 永井 俊文 株式会社 内山鑑定事務所 古市 宙大株式会社 中央損保鑑定 村松 俊哉 株式会社 かがやき鑑定 山﨑 真

優

I 今、押さえるべき損害鑑定のトレンド



昨年に続き、損害鑑定人が日々の業務の中で悩むことの多い実務テーマをピックアップし、各分野の専門家を交えて意見交換や考察を行っていきます。

今回は、昨今、何かと話題に上がることが多い、『物価変動』と『消費税』の2つの小テーマを取り上げました。未だ終息の兆しを見せないコロナ禍やウクライナ情勢。市場は混乱し、慢性的な供給不足が続いて、さまざまな資材価格に、大きな影響を及ぼしていることは周知のとおりです。ここから派生する物価変動は、損害鑑定人の業務に直結する問題であり、是非、押さえておきたいトレンドの1つと言えます。また、『消費税』については、以前から取扱いに悩むことが多い事項であり、今一度、理解を深めていこうと思います。

小テーマの1つ目の『物価変動』では、価格の調査研究の第一人者である一般 財団法人経済調査会様をお招きし、前段で、市場調査の方法や昨今の物価変動 に関して講演いただきます。後段では、損害鑑定人と共に、実際の見積りを題 材に、認定単価についての意見交換を行い、"今、認定すべき適正な単価"に ついて考えていきます。

小テーマの2つ目の『消費税』では、税の専門家である Ginza会計事務所の植木康彦公認会計士・税理士をお招きし、火災保険、賠償責任保険のそれぞれの算定場面における消費税の取扱いについて、ケース・スタディで学びます。損害鑑定人が考える消費税の取扱いと会計業務の実態を重ね、消費税に関する理解を深めていきます。

コーディネーター



佐々木 孝浩 株式会社 三和鑑定事務所

Ⅱ. 首都直下地震「X-Day」



政府の地震調査委員会が、今後30年以内に70パーセントの確立で起きると予測している「首都直下地震」、約10年ぶりにその被害想定が見直され、先日、その全容が公表されました。この10年間のうちに建築物の耐震化、不燃化などにより、一定の減災効果はあるようですが、いずれにせよ私たち損害鑑定人が過去に経験した地震の規模を、はるかに超えるものであることは間違いありません。

その中で、先ず私たちは自らの身の安全を守るために備え、そして損害鑑定人として課せられた重要な任務である損害調査を、速やかにかつ適正に行うことも社会的な使命の一つであると考えます。

本フォーラムにおいては、前半は"知る"ことを目的に、災害社会学の研究者である東京大学松本祐香協力研究員より、今回見直された被害想定の内容や現状について、リアルに解説いただき、また、日本損害保険協会様より地震保険における調査想定件数や現時点での対応や取り組みなどについてご講演いただきます。さらに、これまで過去の大地震に対応してこられた損害鑑定人の方々の経験談を伺い、必要な知識や知恵そして課題を整理していきます。

また後半においては、"考える"ことを目的に、前半で習得した知識や課題を踏まえ、損害鑑定人・鑑定事務所として今後の備え、そして損害鑑定業界の取り組むべき姿について、会員代表者の方々へのインタビューや、パネルディスカッションを通じて、理解を深めていきます。

本テーマに取り上げた「首都直下地震」は、私たちの想像を超えるものと考えられますので、決して答えは無いのかもしれませんが、ここで、知識を習得し、考え、論議を行うことは、未来における有益な"備え"に結びつくと考えます。

コーディネーター



三浦和也 株式会社 高本損害鑑定事務所

収録にご協力いただいた方

フォーラム実行委員会メンバー

委員長 公益社団法人 日本損害鑑定協会 理事 伊藤 優 理事 田中 公成 委 員 公益社団法人 日本損害鑑定協会 員 公益社団法人 日本損害鑑定協会 理事 藤得 牧 委 佐々木孝浩 員 株式会社三和鑑定事務所 委 委 員 株 式 会 社 名 鑑 日比野成紀 三浦 和也 委員 株式会社高本損害鑑定事務所

フォーラムアンケート QR コード



携帯電話、スマートフォンから QRコードを読み取り、表示されたアンケート画面にて、ご回答ください。

パソコンでお答えいただく方、または QRコード読取機能がない方は、「https://onl.sc/YY81d4d」よりご回答をお願いします。

今後の参考とさせていただきますので、是非、ご協力ください。

アジア航測 株式会社

https://www.ajiko.co.jp/

アジア航測は昨年7月に「Hec-Eye(ヘックアイ)」の販売において業務提携及び資本提携契約を株式会社リアルグローブと締結致しました。この商品は、ドローン等が取得した情報を地図上に集約し、共有するリモート情報共有プラットフォームです。ドローンとスマートフォンで災害現場の状況をライブ配信し、ライブ映像と位置情報・飛行ルート等の情報や入力した被害情報を災害対策本部等と共有ができます。指示・命令等もリアルタイムで複数の現場に行うことができ、現場と本部の連携に要する時間を大幅に短縮することが可能です。



Youtubeに動画もございますので、そちらも是非ご視聴ください。 https://www.youtube.com/watch?v=bHAmyxpnRmY&t=7s

また、オンラインでの技術紹介や商談なども承っておりますので、お声掛けください。 https://www.ajiko.co.jp/online

株式会社 CUBIC

株式会社 CUBICは、高所撮影・俯瞰撮影ができる高所撮影点検システムを、開発・販売しております。高所撮影点検システムは、自由に持ち運びながら、地上に設置して11.5mの高さまで撮影できるシステムです。三階住宅をより詳細に撮影することができます。Wi-Fiデジタルカメラを使用し、簡単な操作で、高精細な撮影ができます。住宅屋根や外壁、樋、太陽光パネル、高速道路、構築物、高所設備などの点検、災害現場や建築現場、遺跡や文化財の撮影・点検などにお使い頂いております。

http://www.cubictech.jp/



株式会社 綜合システムプロダクツ

株式会社 綜合システムプロダクツは、ユーザー企業の業務の効率化・活性化における高度戦略システムの構築、運用支援、情報機器の販売、セキュリティ対策、クラウドサービスまでトータルに提供・提案させて頂きます。

また NECのプラットフォームパートナーとして、NECとの協業による AI、画像認識の提案も可能です。

●鑑定業向け・受注案件管理システム…案件の対応状況・進捗管理、請求書の発行が可能。

http://www.kk-ssp.co.jp/

鑑定業向け *受注案件管理システム*

『受注案件管理システム』の特長

■鑑定人の進捗管理
■損害保険会社の請求方法に対応
■自由検索ツールを使用しての実績管理

一般財団法人 日本建築総合試験所

日本建築総合試験所(GBRC)は、建築全般に関する試験・研究、評価、審査、認証等を行う公正中立な第三者機関です。このうち、耐震耐久性調査室が行う火害診断業務では、火災にあった各種建物を対象として、日本建築学会「建物の火害診断および補修・補強方法 指針・同解説」に基づく現場調査を実施しています。この調査により、対象建物の構造部材の火害等級を推定し、対象とした部材の再利用の可否を判定するとともに、補修・補強の要否を判断するための資料をご提供します。さらに、火害診断後には、構造部材の復旧計画の技術監修や復旧工事の現場確認を第三者機関の立場で行うなど、お客様のご要望に応じた業務も提案させていただきます。

https://www.gbrc.or.jp/



株式会社 フランクリン・ジャパン

https://www.franklinjapan.jp/

フランクリン・ジャパンは落雷データをメインコンテンツとし、雷情報の提供を通じて、社会を雷害から守ることを目的に展開している気象情報会社です(気象庁予報業務許可第33号)。

全国を網羅する独自の雷観測ネットワーク(JLDN)を構築しており観測ネットワークで得られた高精度の落雷データをリアルタイムに提供し、屋外レジャー施設や工場等で人命や設備を守るための防災情報として活用されています。

全国を網羅したデータはおよそ20年にわたり蓄積しており、保険会社様や調査会社様に対しては落雷が所定の場所 / 日時にあったか否かの事実確認用データとして広くご利用いただいています。また、落雷データのご発注からお支払いまでを Webでの一括管理とし、省力化、迅速化を実現させたサービス「落雷データ出力システム -LiDaS-」は100超の事業所様にて利用実績がございます。サービス導入についてご関心がございましたら是非お問い合わせください。





雷ぶらり

株式会社 マスタックエフ

https://mastaxf.jp/company

株式会社マスタックエフは、屋根・外装工事のエキスパートです。

屋根工事事業では『技術の向上』、『新たな製品』、『施工の技術開発』を通じて、お客様の大切な財産を屋根から守り、快適な日常を提案しております。

損害保険調査事業では、近年の自然災害の激甚化、頻発化により増加する屋根・外壁の損害に対し、屋根・外壁工事の専門業者としての技術と経験を活かし、プロとしての見地より損害の確認・調査を行っております。

また近年問題視されている火災保険金をめぐる不正請求や、調査時に見られる様々な事象に対し、風洞実験や引抜き実験、曝露実験などの社内実験を通じて検証を行い、質の高い鑑定支援の提供を実施しております。



メインマーク 株式会社

https://mainmark.co.jp/

「傾いた床や建物を水平に戻すこと」「今ある床や建物を傾かせないこと」を主な事業内容とするメインマークは、業務を止めることなく傾いた床を水平に戻す「テラテック工法」をメインに、お客様のお悩みに合わせた様々な工事をご提案から調査、施工まで提供しています。

■事業内容■

土間床の沈下修正、空洞充填、建物下の地盤改良・強化、建物の傾き修正、構造物の振動解析、 液状化対策工事など

■特 長■

メインマークには、一級建築士を始め、建築、土木、地盤、液状化、構造振動の専門家が在籍しております。建物や地盤の状況、お客様の抱えるお悩みにより、幅広い工法とサービスから最適な提案を行います。



BELFOR Asia グループ ベルフォアジャパン 株式会社 リカバリープロ 株式会社

ベルフォアは、世界最大級の災害復旧サービスの提供を専門とする企業グループです。ベルフォアアジアは、シンガポールに本社を置き、日本、中国、韓国、台湾、及びタイに法人があります。24時間365日対応で、経験豊富な専門スタッフが現場に駆け付け、専門技術や自社開発の洗浄剤、専用機器などを駆使して、お客様の早期復旧のお手伝いをさせていただきます。

- ■対象業種:食品·飲料、化学·製薬、繊維、金属加工・プラスティック加工、ホテル·旅館・レストラン、 通信、自動車、鉄道、船舶関連 等
- ■対象事故: 火災、水災 /水濡れ、津波、台風、洪水、化学物質の漏洩、汚損 等





リカバリープロ

https://www.belfor.com/ja/jp https://recoverypro.jp/



役員一覧 / Officer

会	長	太田 英俊(株式会社 中央損保鑑定)
副名	会長	内山 真(株式会社 内山鑑定事務所)
		加藤 友好(株式会社 名鑑)
		藤原 昌明(株式会社 三和鑑定事務所)
専 務	理事	永島 孝司(公益社団法人 日本損害鑑定協会)
	事	伊藤 優(株式会社 アスカ総合鑑定)
		岩泉 和則(株式会社 東鑑)
		髙本 吉孝(株式会社 高本損害鑑定事務所)
理		田中 公成 (株式会社 甘糟鑑定事務所)
		藤得 牧(東京損保鑑定 株式会社)
		野田 曻一(株式会社 かがやき鑑定)
		野間 隆則(西日本鑑定 株式会社)
		森下 泉(株式会社 札幌鑑定)
監	事	奥田 邦彦(株式会社 トラストクレームサービス)
īm		森園 哲之(株式会社 福岡損保鑑定)

※五十音順

会員一覧(本社所在地) / Member

九州·沖縄地区

有限会社 赤坂鑑定事務所 株式会社 インステック・アール

有限会社 沖縄損保鑑定

株式会社 三立鑑定

株式会社 相 鑑

株式会社 高本損害鑑定事務所

株式会社 福岡損保鑑定

株式会社 ホーネット鑑定

中国·四国地区

インフィニティ 株式会社

黒崎鑑定社

西日本鑑定 株式会社

関西地区

あおぞら総合鑑定 有限会社

あずま鑑定

大野鑑定事務所

株式会社 かがやき鑑定

有限会社 神戸天神鑑定

有限会社 酒井鑑定事務所

有限会社 さくら鑑定事務所

株式会社 三和鑑定事務所

有限会社 須磨鑑定事務所

有限会社 総合技術鑑定

有限会社 髙本鑑定事務所

有限会社 天神鑑定関西

株式会社 トラストクレームサービス

阪和鑑定 合同会社

湊損害鑑定 有限会社

株式会社 若葉総合鑑定

中部地区

有限会社 葵鑑定事務所

株式会社 アスカ総合鑑定

有限会社 遠州損保鑑定事務所

株式会社 S&S損保鑑定

有限会社 グローバル鑑定事務所

有限会社 静岡損保鑑定

有限会社 高岡鑑定事務所

有限会社 中日鑑定事務所

株式会社 中部総合鑑定

有限会社 つばさリスクアジャスティング

有限会社 北陸損保鑑定

株式会社 丸の内鑑定事務所

関東地区

みずほ鑑定 株式会社 株式会社 名 鑑

有限会社 大和鑑定

合同会社 iCube

株式会社 あずさ損保鑑定事務所

株式会社 甘糟鑑定事務所

株式会社 内山鑑定事務所

有限会社 共和鑑定

株式会社 芝浦鑑定

株式会社 湘南鑑定

株式会社 中央損保鑑定

株式会社 東 鑑

東京損保鑑定 株式会社

株式会社 永松鑑定事務所

株式会社 みなと鑑定事務所

有限会社 むさし野損害鑑定

株式会社 山貴総合鑑定

株式会社 横浜鑑定事務所

株式会社 ライフ鑑定調査事務所

北海道·東北地区

株式会社 札幌鑑定

株式会社 デーエム

有限会社 道央損保鑑定

株式会社 北海道鑑定

杜の都鑑定 株式会社

渡部鑑定事務所

※エリア別・五十音順

主催・フォーラム運営本部

公益社団法人 日本損害鑑定協会

https://www.laaj.or.jp/

〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9 TEL 03-3254-6454(代)